

活躍する自衛隊員 世界編

- 陸上
- 海上
- 航空
- 事務官等

※階級、勤務先は2023年3月31日現在のもの

階級 氏名

- ① 勤務先
- ② 職種・職域

ロシア (モスクワ)



情報戦の最前線で

私が着任して約8か月後の昨年2月末、ロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。侵攻前から現在に至るまで真偽不明の情報が多数飛び交い、まさに情報戦の最前線にいることを実感する毎日です。そんな中、これまで自衛隊で培ってきた軍事に関する専門知識を総動員させ、自分たちにしかできないことは何なのかという視点を常に持ち、日々業務にあたっています。特に当地の武官団には、世界各国から200名以上の武官が集まってきており、各国・各人が持つそれぞれの視点からの意見を聞けることは大変貴重だと感じています。わが国の情報活動に少しでも貢献できるよう、引き続き尽力したいと思います。



在露日本大使館での天皇誕生日レセプション

1等陸佐 吉田 賢輔

- ① 在ロシア日本国大使館
- ② 情報科

ウクライナ



C-2輸送機によるウクライナ支援のための物資提供にかかる空輸

私は、空自の輸送機操縦者として勤務しています。2022年3月、ウクライナを支援するため、防弾チョッキなどの物資提供にかかる空輸に従事しました。様々な国を経由しましたが、各国との複雑な調整を経てポーランドで物資を引継ぎ、その際に頂いた大使館関係者の感謝の言葉に、我々の活動が危機に直面している人々の支えとなっていることを実感しました。日本人として、また自衛官として、誇りを感じました。

国際社会が不安定な中、自衛隊の活動の必要性が高まっています。いざという時に備えて訓練に励み、我々に与えられる任務を完遂したいと思います。



C-2輸送機への物資搭載の様子

3等空佐 八木 洋徳

- ① 第3輸送航空隊第403飛行隊 (美保基地)
- ② 操縦

オーストラリア



航空機に乗り込む本人

1等空尉 桐生 顕大

- ① 第7航空団飛行群第3飛行隊 (百里基地)
- ② 操縦

ピッチ・ブラック22に参加して

私はF2戦闘機操縦者として、オーストラリアにて開催されたピッチ・ブラック22に参加しました。

訓練では、ドッグファイトと呼ばれる対戦闘機戦闘をはじめ、様々なミッションを豪空軍、米軍その他参加国の戦闘機部隊と共に行いました。会話は全て英語で行いましたが、一言に英語といっても国ごとに発音は異なり、うまく通じない場面においては、互いに身振り手振りによるボディランゲージを用いて、言語の壁を乗り越えました。

厳しい訓練を共に乗り越えて得た信頼関係は、今後の諸外国との円滑な連携への糧になると確信しております。



訓練オープニングセレモニーにて

シンガポール



勤務場所で撮影する筆者

2等海佐 梶澤 祐一

- ① 米海軍第73任務部隊 (西太平洋兵站群)
- ② 経補

米海軍第73任務部隊での勤務

シンガポールはインド洋と太平洋とを結ぶマラッカ・シンガポール海峡とも面しており、地域の安定とわが国のシーレーンの安定のためにも重要な地域です。私は、シンガポールにおいて、ロジスティクスを所掌する米海軍第73任務部隊の連絡官として勤務しています。主な業務は、日米補給艦などの行動計画の確認及び提供であり、西太平洋における海自艦艇などと米軍との補給支援などの調整などを行っています。

現場調整などの実務を行うことで日米共同後方の深化に携わることができるのは貴重な機会であり、この経験を今後も活かしたいと思います。

カナダ (オタワ)



レセプションで加海軍日本担当と懇談

一等書記官 木村 泰之

- ① 在カナダ日本国大使館
- ② 事務官

私は、防衛省から外務省に出向し、在カナダ日本国大使館の政務班で、安全保障・防衛や軍備管理・軍縮を担当しています。カナダ政府との交渉や協議に関する調整、情報収集、有識者との意見交換、日本からの要人対応の支援など、多岐に渡る業務を行っています。

カナダはG7の1国で大西洋・太平洋・北極海と3つの海洋に面し多様な人々から構成される自然豊かな広大な国ですが、昨年カナダのインド太平洋戦略がとりまとめられ、わが国とますます連携する機会が増えています。その最前線でカナダの同僚の人達と共により良い安全保障の確保を目指して邁進しています。



有識者との意見交換 (左が筆者)

アメリカ (ニューヨーク州)



国連本部ビル前にて

2等陸佐 荒木 順子

- ① 国際連合本部
- ② 高射特科

国連本部で世界の平和と安全をサポート

私は2022年7月からニューヨークの国連本部で軍事計画官として勤務しており、UNMISS*主担当としてマンデート遂行に必要な軍の定員、編成、装備及び部隊運用にかかる業務に従事しています。他にも副軍事顧問のコソボ、スーダン及び南スーダンへの現場視察に随行し、国連PKOの現場の状況をつぶさに確認しました。

紛争形態の変化や様々な脅威の存在により、現在のPKOの任務は多機能にわたり、現場はより複雑かつ困難な環境に置かれています。また、限られた予算の中で国際の平和と安全を維持することは簡単なことではありませんが、世界の国連加盟国の同僚とともに、引き続き要員の安全性向上を含むPKOの質的向上に取り組んでまいります。

*UNMISS: United Nations Mission in South Sudan (国連南スーダン共和国ミッション)



副軍事顧問オプライン少将との出張 (南スーダン)

アメリカ (カリフォルニア州)



授業において意見を述べる筆者

3等海佐 伊藤 優生

- ① 米海軍大学院大学 (海上自衛隊幹部学校所属)
- ② 情報

米海軍大学院大学 (Naval Postgraduate School) 情報戦課程の留学

私は、2022年6月から2年間、カリフォルニア州に所在するアメリカ海軍大学院大学において情報戦工学修士取得を目指して勉強しています。本校は「科学と兵術が合わさる場所」を標榜し、戦略から戦い方、装備技術などを学術的に研究し、また科学的知見に基づく判断力を持った士官などを養成している大学院です。私はここで米軍士官と共に情報戦に関する技術、理論及び運用手法を学際的に学んでいます。情報戦は安定した安全保障環境を維持するうえで必須の業務であり、帰国後はわが国の情報戦関連業務などに貢献したいと考えています。



同期学生との集合写真 (筆者右から3人目)

防衛駐在官の派遣状況

